

## 東京医科歯科大学病院



## オアシス

トピックス

2. 新病院長のごあいさつ / 前・新病院長対談
4. 首席副院長のメッセージ
5. リプロダクションセンター / 口腔小線源治療外来 / C棟(機能強化棟)がオープン
6. 新任メッセージ / 乳腺外科 / 心臓血管外科
7. 薬剤部 / 救命救急(ER)センター / ICL手術がスタート
8. MEセンター / 不整脈センター
9. 臨床栄養部 / 医療連携支援センター
10. 顎顔面補綴外来 / 言語治療外来 / 臨床研究中核病院設置準備室 / 人工関節手術支援ロボット治療
11. 教えて! 看護部「PCCチーム」 / 新しい治療法のご紹介
12. NHK「ドキュメント72時間」で当院が紹介されました / 「すぐ帰れる」サービス / 全診療科における完全紹介制の導入 / セカンドオピニオン外来 / 献体のご案内 / 東京医科歯科大学支援基金 / 新型コロナウイルス感染症対策基金のお願い



内田 信一前病院長

藤井 靖久新病院長



## NHK「ドキュメント72時間」で当院が紹介されました!

NHKの人気番組「ドキュメント72時間」(6月30日22:45～7月8日9:30放送)で本学の知と癒しの庭と屋上庭園の様子が紹介されました。この番組に登場した患者さんを探してみたと、整形外科・宮武和正先生の患者さんである佐藤さんが外来を受診されているようすを撮影することができました。佐藤さんは「店(中華料理店)に来たお客さんや知り合いに『見たよ!』って言われました。店の取材はお断りしてありますが今回は協力しました」とのこと。取材拒否の佐藤さんが取材OKしてくださったおかげで、いい番組になりました。ご協力ありがとうございました。



## 「すぐ帰れる」サービス

「診療が終わったら会計を待たずにすぐに帰りたい!」という方は、クレジットカードとスマートフォン(パソコン、タブレットでも可)があればすぐに登録でき、その日の外来支払から利用できる「すぐ帰れる」サービスをご利用ください。QRコードを読み取り、必要事項を登録すれば完了です。登録した患者さんは、1階計算の専用窓口か3～4階エスカレーター脇の保険証確認窓口で受け付け後、会計を待たずにそのまま帰宅することができます。是非ご利用ください。



## 全診療科における完全紹介制の導入

当院では全診療科において、完全紹介制とさせていただきます。当院に初めておかけの場合、新たな診療科におかけの場合、前回の来院より3ヶ月以上経過している場合は、原則として他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)が必要となります。

《例》他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)が必要になるのは…

- ・ある科を受診中の方で、別の診療科を初めて受診したい場合
- ・過去に受診した診療科でも、自己判断により3ヶ月以上受診がない場合

完全紹介制を導入した経緯は、専門的な診療を提供する大学病院としての使命と役割を果たすためですので、ご理解・ご協力をお願いいたします。



## セカンドオピニオン外来

セカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関に通院している患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にさせていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申込みください。通常の外来受診とは異なりますのでご注意ください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、診療情報提供書や資料を用意いたしますので、担当医にお申し出ください。

## ■ 問い合わせ先

セカンドオピニオン外来  
TEL : 03-5803-4568  
平日9:00～16:00



## 東京医科歯科大学病院支援基金のお願い

先端医療の開発推進や診療体制の充実、診療環境整備を行い、患者サービス改善のため活用させていただく基金です。

一口1,000円からお申込みいただけます。  
詳しい内容については、下記までお問い合わせください。

## ■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室  
TEL : 03-5803-5068  
E-mail : bokin.adm@tmd.ac.jp



## 献体のご案内

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立たせたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

## ■ 問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会事務局  
TEL : 03-5803-5147



## 新型コロナウイルス感染症対策基金のお願い



## 新型コロナウイルス感染症対策基金にご協力ください

東京医科歯科大学は2つの基本理念で、新型コロナウイルス感染症に正面から取り組んでいます。

- 東京医科歯科大学では「病院における新型コロナウイルス感染重症・中等症陽性患者の受入体制の構築」を、最優先事項に位置付け、全学的な支援を行っております。
- ポスト新型コロナウイルス感染症の社会に備えた医療体制を整えます。ご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



基金HP





## 新病院長のごあいさつ

### 藤井 靖久 (ふじい・やすひさ)

東京医科歯科大学病院 病院長



2023年4月より、東京医科歯科大学病院・病院長を拝命いたしました。皆様、よろしくお願ひ申し上げます。当院の理念と、4つの基本方針は、医学部および歯学部附属病院という2つの病院の一体化によって医学と歯学の融

合が進み相乗効果を発揮して、「頭から足先まで」トータルに全身を診ることで、今まで以上に患者さんの健康に貢献できる医療を提供することを掲げたものです。

本年10月にはC棟（機能強化棟）が完成予定で、新時代の救急医療と、ICU、HCU、ハイブリッド手術室、ロボット手術など高度先進医療を提供する新たな拠点となり、私も大いに期待しています。2023年6月現在、当院では手術ロボット2台（ともにダビンチ）が稼働中ですが、今年中にさらに2台（ダビンチ、および東京工業大学と本学が開発に寄与した国産のSAROA）のロボットが導入されますので、より多くの患者さんに貢献できると思います。

また、本学と東京工業大学は2024年度中を目途として統合し「東京科学大学（仮称）」という一つの大学に生まれ変わる予定です。医学と歯学のみならず理工学と融合することで、研究開発力が強化され、より高いレベルの医療を提供できると期待しています。

長らくの懸案であった臨床研究中核病院は必ず実現させたいと思っています。そのため、さまざまなアプローチで進めています。

私の専門は泌尿器科で、ロボット支援手術を数多く施行している外科です。一方、内科的、画像診断科的側面もあり、今まで東京工業大学の先生方と泌尿器科疾患の人工知能による画像診断の研究を進めてきました。今後、大学統合で医歯理工連携が進み、さらなる研究成果を発信することに大きな期待を抱いております。新米の病院長ですので、これから学ぶべきことが多々あります。皆様のご指導やご協力をいただけますよう、心よりお願ひ申し上げます。



### 内田 信一 理事

東京医科歯科大学病院 腎臓内科教授（前病院長）

### 藤井 靖久 病院長

東京医科歯科大学病院 泌尿器科教授

## 各人材が職種のプロフェッショナルとして リーダーシップを発揮しやすい環境を目指します

4月に就任した藤井靖久病院長（泌尿器科教授）と、3月まで3年間病院長を務めた内田信一理事（腎臓内科教授）が病院長の役割やこれからの病院運営について話し合いました。



**内田** 藤井先生が病院長に就任して半年経過しようとしています。私は2020年4月、コロナ禍の始まりと共に病院長になりましたので、コロナ対応に明け暮れていたという感じです。そのコロナ対応では病院に多くの未知の問題への対応を求められましたので、それらを実現させるために現場と詰めていく作業が膨大になり、プレッシャーで押しつぶされそうになりました。そんな厳しい状況も、皆様のご支援で何とか乗り越えられたという感じで、患者さん、職員、大学関係者など当院を支えてくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱい입니다。このような厳しいコロナ禍でも、医歯一体化ができたことや、病院機能評価の認証を得られたことは朗報だったと思いますし、なにより、毎日のコロナ対策によって、職種を超えた多くの方々との協力関係ができたことは、その後の病院長としての職責を果たす上で、非常に助かりました。

**藤井** コロナは感染者が微増していますが病院の対応は落ち着いています。しかしコロナ以外にも病院にはさまざまな課題があり、それらは状況に応じて刻一刻と変化しますの

で、いつでも課題を抱えているような気持ちです。現在は、光熱費などの物価高騰があり、一方でコロナ前ほどは外来および入院の患者さんが戻っていないため、病院収支は厳しい状況です。引き続き患者さんの期待に応えられるように、皆で頑張っ乗り越えていきたいと思ひます。そのためには、医療従事者のみならず全ての人材が、その職種のプロフェッショナルとしてトップダウンから脱却して「権限によらないリーダーシップ」、すなわち職種、職位によらない、垣根をこえたりリーダーシップを発揮することが必要で、病院長は各人材がリーダーシップを発揮しやすい環境を作らなければならないと考えています。2024年4月から「医師の働き方改革」が本格的に始まりますので、こちらも適切に進めてまいります。

**内田** よろしくお願ひします。私も医療担当理事として、個々の診療科や部門が問題を抱えていないかをしっかりreviewし、問題があれば対応していきます。今後の東工大との統合を見据え、病院の財務が大学の負担にならないように、病院と大学の役割分担と財務分担を明らかにしていくことが急務だと考えています。その他、関連病院や行政との連携も強化していきたいと考えています。

**藤井** 内田先生は、目標設定能力、情報分析、判断力、責任感、実行力などリーダーシップに非常に優れています。このようなリーダーシップは一朝一夕には身につきませんが、少しでも近づけるよう努めています。内田先生は「辛いと思うときは、いつでも声を上げてください」と、職員にも患者さんにも繰り返し声をかけていらっしゃいました。この点も見習いたく、「力を合わせて患者さんと仲間たちを守る」を新病院長としての所信表明とさせていただきます。

**内田** ありがとうございます。コロナ対応によって顔の見える信頼関係がさらに強固に構築され、当院の医療レベルは非常に高くなりました。コロナが落ち着いた今は、通常診療での病院稼働率の回復が求められており、その部分について藤井病院長は、就任早々から積極的に取り組んでいただひており、頼もしい限りです。藤井病院長のリーダーシップの下で、外科系医療や急性期医療は「C棟（機能強化棟）」により、さらに洗練されてくるはずで。

**藤井** 判断に迷ったときは、しばしば内田先生に相談させていただきます。いつも適格なご判断をいただき感謝しています。どうか引き続きご指導をお願ひいたします。当院には、診療、研究、教育で、社会に貢献するという使命がありますので、今後も患者さんの期待に継続して応えられまうように、職員一同努力してまいります。



## 首席副院長のメッセージ

### 新田 浩 (にした ひろし)

東京医科歯科大学病院 首席副院長



いつも当院をご利用いただき、ありがとうございます。私が首席副院長に就任した2022年4月は新型コロナウイルス感染症の第6波がやや落ち着いてきた時でしたが、7月にそれまでの波を上回る規模で第7波が押し寄せ、10月からは第8波への対応に追われた1年3か月でした。この間、歯系診療部門の医療従事者にも感染者が出ましたが、二次感染を最小限に抑え、診療を平常通り継続できたことは、患者さん、病院職員のご協力のおかげと感謝しています。

2021年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院が統合し、これまでに以上に医科歯科連携を進めることができました。特に医療安全と感染対策については、多職種の視点から検討され、向上しています。2022年に医系診療部門の手術患者さんの肺炎などの合併症の発症を減少させるために口腔管理を実施する「オーラルヘルスセンター」が本格稼働を開始し、2023年6月には1か月あたり800名程の患者さんを診療するほどになりました。

病院には患者さんやその家族などから感謝・お褒め、あるいは厳しいご意見をいただいています。患者さんの貴重なご意見を医療の現場に反映させることにより、東京医科歯科大学病院がより良くなっていくことができます。これからも忌憚のないご意見をお寄せいただくようお願いいたします。

大学病院の使命として診療の他、研究と人材育成があります。本院では医療ビッグデータを用いた研究など、多くの臨床研究や疫学研究を行っており、現在の医療のみならず、未来の医療の提供を目指して日々精進しております。さらに本院は医師・歯科医師など、医療者の「医育機関」でもあります。医学研究と人材育成に対する患者さんのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

#### 副院長・病院長補佐のご紹介

副院長	医療安全	宮崎 泰成
	診療・地域連携	大野 京子
	手術・先進医療・働き方改革	堤 剛
	診療情報	木下 淳博
	看護・サービス・環境整備	浅香 えみ子
病院長 補佐	診療整備・内科	笹野 哲郎
	診療整備・外科	絹笠 祐介
	メディカルスタッフ	高橋 弘充
	薬剤	永田 将司
	診療報酬	藍 真澄
	医療連携・広報	田村 郁
	臨床研究	小池 竜司
	安全管理	工藤 篤
	感染	具 芳明
	救命救急	森下 幸治
	集中治療・ベッドコントロールセンター	若林 健二
	災害	植木 穰
	ウイルス制御	武内 寛明
経営改善	秋葉 泰樹	
再整備	金澤 学	
臨床研究・教育等(歯系)	笛木 賢治	
手術・病棟・医歯連携・安全管理(歯系)	前田 茂	
診療整備・感染・災害(歯系)	小野 卓史	



#### 新設の診療科・新設のセンターのご紹介

### リプロダクションセンター

センター長 石川 智則 (いしかわ ともり)



リプロダクションセンターでは、大学病院の総合力を駆使して、生殖医療専門医をはじめとする経験豊富なスタッフが、“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産を希望している患者さんに、確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供します。詳しいパンフレットもありますので、ぜひご覧ください。

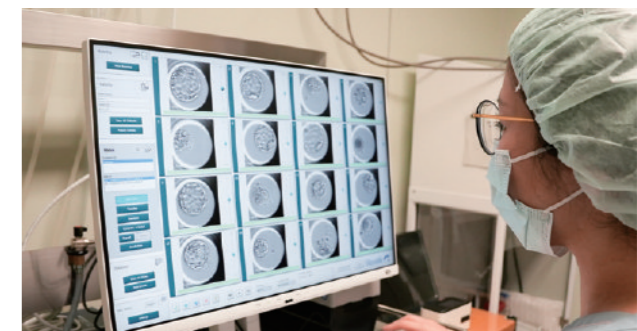
#### ● センターの概要

リプロダクションセンターは、“今すぐ”

または“将来”の妊娠・出産を希望する患者さんに、専門的かつ包括的な生殖医療を提供します。周産・女性診療科の生殖医療チームを中心に泌尿器科・小児科・遺伝子診療科・心身医療科の5つの診療科の専門医や経験豊富なスタッフが、“妊娠成立”に加えて“より安全な分娩”や“出産後の健やかな生活”を治療の目標と考えて、確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供します。

#### ● 取り扱うおもな疾患

生殖医療全般(女性および男性の不妊症の検査・治療、人工授精、体外受精)、生殖機能の温存(精子凍結・保存、卵子凍結・保存、胚凍結・保存)、生殖外科手術(子宮筋腫や卵巣腫瘍に対する低侵襲手術)、不育症、着床前遺伝学的検査(PGT-A/SR/M)と遺伝カウンセリング、看護カウンセリング、心理カウンセリング



#### 新設の専門外来のご紹介

### 口腔小線源治療外来

医系診療部門放射線治療科長  
吉村 亮一 (よしむら りょういち)  
歯系診療部門歯科放射線科長  
三浦 雅彦 (みうら まさひこ)



吉村 亮一医師 三浦 雅彦歯科医師

口腔小線源治療外来では、医科と歯科が協働で、口腔がんに対する切らずに治す放射線治療を実施しています。具体的には、早期口腔がんと診断されたものの、手術が受けられない患者さんや、手術を希望されない患者さんに対する侵襲の少ない「小線源治療」を実施しています。小線源治療とは放射線治療の一つで、病気の内部が近くに小さな線源を留置して直接的に放射線を照射し、治療する方

法で、線源は小さいため、放射線が広がる範囲も狭く、病気の周囲の正常組織は少ない被ばくで済みます。

この治療は本院では1962年に医科と歯科の放射線科が一緒になって開始し、その後、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、口腔外科、顎顔面補綴外来などの協力を得て、工夫を重ねながら続けてきました。詳しくは、パンフレットをご参照ください。

2021年に医科と歯科が病院として一つになったのをきっかけに、放射線治療科外来の中に専門外来として口腔小線源治療外来を開設し、より多くの患者さんに小線源治療を提供したいと考えています。

院内だけでなく、他院からの紹介、患者さんからのお問い合わせも受け付けています。

New!

## C棟(機能強化棟)が2023年10月1日にオープン!

2018年からスタートしたC棟(機能強化棟)の工事が終了し、2023年10月より本格稼働します。長期間の工事の間、病院を利用される皆様にはご迷惑をおかけいたしました。皆様のご協力のおかげで予定通りに完成することができました。病院職員一同、心より感謝いたします。すでに2023年6月末にはC棟地下1階と1階の通行ができるようになり、カフェや休憩スペースもご利用いただけるようになりました。2023年10月1日からは手術室、ERセンター、ICU、材料部(6月から稼働中)も本格稼働します。免震構造と防災機能強化のための設備を整えたC棟を活用して、巨大地震発生時にも医療を提供できる病院としての守りを強固にし、高度急性期医療提供機能のさらなる強化と充実に貢献していきます。





新任診療科長・部長・センター長ご紹介

## 乳腺外科

科長 小田 剛史(おだ・こうし)




乳癌は外科手術だけで治す時代ではなくなりました。大学病院ならではの、集学的治療を率いることが乳腺外科の使命と考えております。放射線診断科、治療科、形成外科、病理だけでなく、緩和医療、遺伝相談、妊孕性など関連診療科と密に連携し、患者さんご家族のサポートをしていきます。

● 診療科の概要

早期乳癌の場合は、乳房温存療法、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清の省略など Quality of life を重視した治療を積極的に行っています。さらに大きさや場所などから乳房温存が難しいという場合も、形成外科と連携し、乳癌手術と再建を同時に実施する同時再建に早くから積極的に取り組み、高い実績を上げてきています。

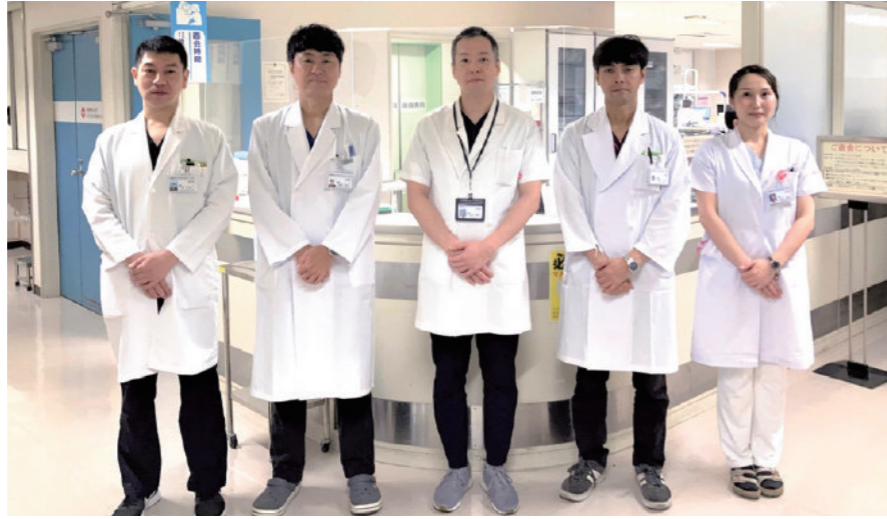
● 取り扱うおもな疾患

乳癌、再発乳癌、線維腺腫、葉状腫瘍など

● おもな診断・治療法

診断法：マンモグラフィ、乳腺超音波検査、乳房MRI、PET-CT、ステレオガイド下マンモトーム生検、針生検、穿刺吸引細胞診

治療法：乳房温存術、乳房切除術、同時乳房再建術(形成外科と連携)、センチネルリンパ節生検、腋窩リンパ節郭清術、化学療法、内分泌療法、放射線療法など



新任診療科長・部長・センター長ご紹介

## 心臓血管外科

科長 藤田 知之(ふじた・ともゆき)




当科では、「長期遠隔予後の優れた Quality of life の高い手術」とは何かにこだわり、精度の高い最新の心臓大血管手術を、より安全かつ低侵襲に行っております。一般の病院では治療が困難な複合疾患を合併した重症例こそ、大学病院が担うべき外科医療と考え、重症・緊急にかかわらず、随時手術を受け入れております。妥協なき手術と、他科とのチーム医療による徹底した周術期管理により、総合力として最高水準の外科医療を提供します。

対しては、補助人工心臓治療(LVAD)や再生医療を行い患者さんのQOLを取り戻します。ロボット手術は2023年10月より開始予定です。

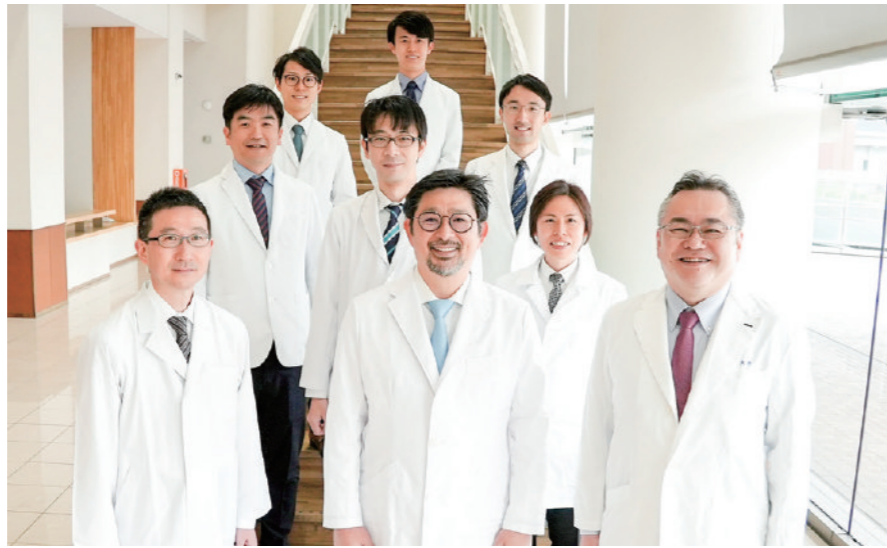
● 取り扱うおもな疾患

狭心症・心筋梗塞、あらゆる弁膜症、大動脈解離、大動脈瘤(胸部・腹部とも)、心筋疾患(重症心不全)、不整脈、先天性心疾患(小児期から成人まで)



● 診療科の概要

低侵襲手術(MICS手術)やオフポンプ冠動脈バイパス手術など、「体にやさしい手術」を目指しています。私が受けた手術、私の家族に受けさせたい手術をモットーに、最先端の知識と技術を集結させて患者さんに提供しています。弁膜症に対しては自分の弁を温存する形成術をMICSで行うことを基本としており、特に僧帽弁形成術では1000例以上の経験に基づき長持ちする形成術を心がけています。心房細動に対してもMICSでメイズ手術や左心耳閉鎖術も行っています。一般的に大手術となる大動脈解離手術でも救命すること術後のQOL回復を目指してハイブリッド手術を取り入れています。東京医科歯科大学の特徴でもある重症心不全に



新任診療科長・部長・センター長ご紹介

## 薬剤部

部長 永田 将司(ながた・まさし)




薬剤師は医療チームの一員として、薬のプロフェッショナルの立場から、有効かつ安全な薬物療法の確立を通して、患者さんへの安全で安心な薬物療法の提供に最善を尽くしてまいります。これからも医療の信頼性を高め、特定機能病院として高度な医療を開発・

実践すべく、全ての薬剤師が研鑽を重ねてまいります。

● 部の概要

薬剤部では、安全で確実な調剤を基本に、医薬品情報の提供、医薬品の品質・在庫管理、

麻薬管理、治験薬管理、院内製剤の調製、抗がん剤のミキシング・レジメン管理、薬物血中濃度モニタリングなどの中央業務を行っています。また、チーム医療では医療安全、感染対策、緩和ケア診療などに参画、更に拡充されたスタッフにより、病棟薬剤師を中心にベッドサイドで持参薬の確認から退院時のお薬まで、安全で安心な薬物療法の提供を使命とし、薬剤部一丸となって業務を行っています。

● おもな診断・治療法

- ・服薬指導・退院指導
- ・薬物血中濃度測定および血中濃度に基づく体内動態解析
- ・中心静脈栄養に用いられる注射剤および抗がん剤の無菌調製
- ・各種院内製剤の調製
- ・各種医薬品の品質管理試験



新任診療科長・部長・センター長ご紹介

## 救命救急(ER)センター

センター長 森下 幸治(もりした・こうじ)




救命救急センターは2007年4月、都内23施設目の救命救急センターとして開設されました。都内屈指の受け入れ体制を目指し全学をあげた取り組みにより、厚生労働省が毎年実施している救命救急センターの充実段階評価において2009年から常に高評価(S評価)

をいただいております。24時間365日、優秀なスタッフが安定した医療を提供しています。救急専門医・専従医が24時間365日電話対応します。

● センターの概要

24時間365日、高度な医療設備とスタッフを備えて救急医療を提供します。救命救急センターは、生命に危険がある重症な患者さんを救命するために受け入れを行う「国から指定された施設」であり、初期治療から入院後の集中治療にかけてまで、全力を尽くして治療にあたっています。最新の治療設備や救

命救急専用病床、ドクターカー、ヘリポートなどを最大限に活用して、各科と連携しながら専門スタッフが最善の救急医療を提供します。行政からのニーズに応じて多数の重症COVID-19患者さんの受け入れ・治療を行っております。

● 取り扱う主な疾患

あらゆる急性期疾患:感染症、外傷、急性腹症、中毒、脳卒中、急性冠症候群など。院内急変にも対応しています。



注目! New治療法 ICL (眼内レンズ) 手術がスタート (眼科)

東京医科歯科大学病院眼科では、ICL (Implantable Contact Lens : ICL) 手術をスタートしました。ICLは日本語で「眼内コンタクトレンズ」と呼ばれ、眼の中(水晶体と虹彩の間)に専用コンタクトレンズを入れることで近視・乱視・遠視を矯正する屈折矯正手術です。当院ではICL認定医資格を取得した眼科医が中心となって治療を行っています。詳細についてはQRコードを読み取って情報ページをご覧ください。実際の治療の流れを写真を用いてわかりやすく説明しています。



New!



新任診療科長・部長・センター長 ご紹介

## MEセンター

センター長 倉島 直樹(くらしま・なおき)




現在の医療は高度な医療技術の進歩により目覚ましい進化を遂げています。しかし、医療技術が進歩しているだけでは、安全で高度な診断や治療を提供することはできません。それらを提供するために、診断や治療に使用されている機器の管理や点検はとても重要です。医療工学の知識を持っている臨床工学技士は、安全な医療を提供するチーム医療の一員として必要不可欠です。当センターでは技師長を筆頭に、ME機器の保守管理における装置の安全性の確立やチーム医療の一員としての治療を行っております。

### ● センターの概要


現在、MEセンターには臨床工学技士40名が協力し業務を行っております。おもな業務は、血液浄化療法部・手術部・高気圧治療部・集中治療部・血管撮影室・ME機器管理部など多岐にわたります。また、定期的に院内勉強会を開催し、ME機器の操作指導や技術提供に貢献しています。



新任診療科長・部長・センター長 ご紹介

## 不整脈センター

センター長 宮崎 晋介(みやざき・しんすけ)

不整脈センターは専門医師が高度先進技術を駆使することによって不整脈を治療させて、不整脈による症状の緩和、生命予後の改善、心不全の改善、生活の質の改善をもたらすことを目的として平成23年に新設されました。スタッフ一同、不整脈の患者さん一人一人に対して治療効果が高く、安全で、最新の不整脈診療を親身になって実施する所存です。

### ● センターの概要

本センターは、不整脈で苦しむ方のなかで薬が効かない、効果が不十分、生命の危機がある場合に、<カテーテル治療>や<植込み型デバイス治療>などの治療をより専門的、

より効率的に行うためのものです。そのため、附属病院の循環器内科を中心に、小児科、心臓血管外科の3つの診療科の不整脈診療の専門家がセンターのスタッフとして協力して診療にあたります。

### ● おもな診断・治療法

#### 【カテーテル焼灼術】

脈が異常に速くなる頻脈に対して、心臓の特定の部分にカテーテルを介して熱を加えることにより頻脈を根治する治療法です。当センターでは、放射線被ばくを減少させるための特殊なシステムを用いることにより、より低侵襲なカテーテル焼灼術を施行することも

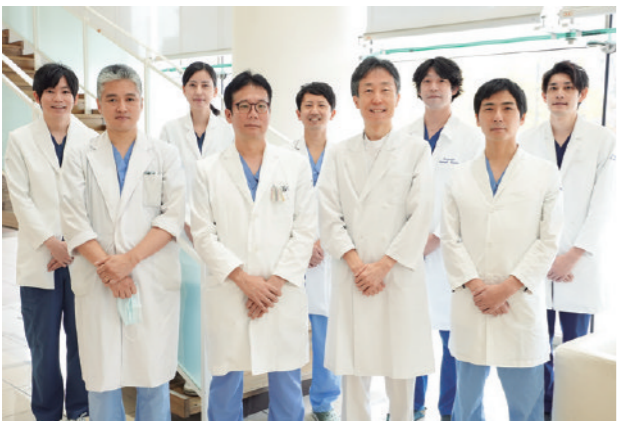
可能です。また、国内最先端の治療機器や治療方法による治療も可能です。

#### 【植込み型デバイス治療】

脈が異常に遅くなった場合には、心臓を電気刺激して脈拍を正常化するペースメーカーを皮膚の下に植込みます。この他に2種類の植込み型デバイスがあり、それぞれ突然死(=心室細動が原因)、心不全の治療に威力を発揮します。

### ● 取り扱うおもな疾患

カテーテル焼灼術の適応となるのは心房細動、上室性頻拍、WPW症候群、心房粗動、心室頻拍(心室期外収縮を含む)などです。植込み型除細動器は突然死を来す種々の原因から発生する心室細動、ブルガダ症候群、QT延長症候群などが対象です。左室駆出率の低下・非同期的な心不全に対しては両心室ペーシング治療が適応になります。心原性失神が疑われる場合には植込み型ループレコーダーなどで精査します。



新任診療科長・部長・センター長 ご紹介

## 臨床栄養部

部長 川田 研郎(かわだ・けんろう)




臨床栄養部は、食を通じて治療を支え、入院生活のQOLの向上と医療に貢献しています。食事を含めた栄養療法は医療の一環であり、全ての治療の根幹となります。臨床栄養部では、安全かつ美味しい食事を提供し、個々の患者さんの病状に応じた適切な栄養管理の推進と、食事療法が継続できるよう、栄養相談や栄養教室を行っています。

食事をしっかり召し上がっていただけるよう、手作りをモットーに国産の生鮮食材をできるだけ使用して家庭的な味を目指しています。患者さんには「とてもおいしい」「家に帰ってからも参考にしたい」と大好評です。

### 【臨床栄養管理】

入院栄養管理：献立作成から個々の患者さんに合った適切な食形態、栄養量の検討を行ったり、経腸栄養や静脈栄養時における栄養剤や輸液メニューの提案も行っています。また、病棟カンファレンスへの参加や院内の多職種チーム(栄養サポート・褥瘡・緩和ケアなど)と連携して栄養管理を行っています。更に、ICUに専任の栄養士、歯科病棟に専任の栄養士を配置し積極的に栄養管理に携わっています。

栄養相談：入院・外来患者さんを対象に月約350件実施

栄養教室：糖尿病教室・減塩教室・がんレクチャーなど

### 【患者給食管理】

患者給食委託職員約60名で、365日休みなく毎食約600食を提供しています。さらに一般治療食、特別治療食を合わせて117食種で対応しています。

### ● 取り組み

入院生活のQOL向上をめざして、選べるメニュー：(一般常食、学齢食の方を対象に週5日)や、「特別メニュー」を提供しています。特に春のお花見弁当、秋の行楽弁当は大好評です。行事食は年約26回あり、クリスマスにはローストチキンやケーキも手作りしており、心を込めて焼き上げます。



新任診療科長・部長・センター長 ご紹介

## 医療連携支援センター

センター長 田村 郁(たむら・かおる)




当センターは、2016年から「地域連携室」、「入院支援室」、「医療福祉支援室」の3部署で構成されておりましたが、2022年4月から「患者相談室」が加わり4つの部署での運営となりました。通院から入退院に至るまでをシームレスに支援し、患者さん、ご家族、地域の医療従事者の方々が安心できるような運営を心がけております。

### ● センターの概要

#### 【地域連携室】

地域連携室では、ご紹介いただいた初診患者さんの事前予約、紹介状の返書管理、患者さんの逆紹介などの連携業務を通して地域医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、安心してご紹介いただける環境の構築に取り組んでおります。

#### 【入院支援室】

入院支援室では、入院前オリエンテーションを通じて患者さんが安全かつ安心して入院治療を受けられること・退院後の療養生活を見据えた支援が早期に提供できることを目指しています。入院後もスムーズに元の生活に移行できるよう、院内外での多職種と連携し、在

宅療養支援や転院調整を行っております。各病棟に配置されたクラークが、医師・看護師など多職種・他部署と連携し、入院から退院まで円滑な事務手続きをサポートしています。

#### 【医療福祉支援室】

医療福祉支援室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族が、適切でより良い療養と社会生活を送れるように社会福祉の立場から、経済的・社会的・心理的問題の解決に向けて共に考え、支援しております。

### 【患者相談室】

患者相談室では、当院に入院あるいは通院されている患者さんやそのご家族から寄せられる様々なご相談や、ご意見・ご要望などをお受けし、専任の相談員(看護師・事務員・警察OB)が医療者側と患者さんなどの対話推進のための支援を行っております。病院のサービス向上と安全良質な医療の提携のため、関連部署と連携し協力して取り組んでおります。







新任診療科長・部長・センター長 ご紹介

## 顎顔面補綴外来・言語治療外来

科長 服部 麻里子 (はっとり・まりこ)

### 顎顔面補綴外来

顎顔面補綴外来では、がん切除後など後天的な顎顔面領域の欠損、口唇口蓋裂など先天的な欠損を持つ患者さんの人生を支えるため、世界唯一の顎顔面補綴専門外来として全力を尽くしています。他科との連携、他施設との連携、地域医療との連携により、顎顔面に欠損のある患者さんが自分らしく生きていくことができるようにサポートします。お気軽にご相談ください。

### 診療科の概要

国内外の施設からの依頼を受け、がんの切除や口唇裂口蓋裂などのために口腔や顔面に欠損のある患者さんに、顎義歯や舌接触補助床など、または顔面補綴装置(顔面エビテーゼ)を製作し、チーム医療の中で咀嚼、嚥下、発音、整容性の回復と改善のお手伝いをします。欠損補綴だけでなく、外科用補助装置、発音



補助装置、放射線治療補助装置などの補助装置も製作しています。

### 取り扱うおもな疾患

顎顔面補綴は、腫瘍・外傷・炎症・嚢胞などの治療で後遺した、あるいは、口蓋裂などの先天疾患により生じた顎顔面領域の欠損部分に、人工物を用いて形態的・機能的・審美的に回復・改善し、患者さんの社会復帰をサポートします。その対象は顎顔面領域に留まらず、頭頸部領域、更には、体幹・四肢領域にも及びます。また、その治療内容は欠損補綴だけでなく、外科治療・放射線治療・言語治療などにおいて使用されるさまざまな補助装置の製作・提供も行っていきます。



### 診療科の概要

発声発語障害・言語発達障害のある方が言語治療外来の対象患者さんです。幼児から成人まで、年齢は問いません。相談から、検査、診断、訓練に至るまで行っています。構成は歯科医師(1名)と言語聴覚士(1名)です。

### 取り扱うおもな対象疾患

当外来は歯系診療科に属しているため、口蓋裂、口腔がん、舌小帯短縮症といった器質的な要因による構音障害のある方が多く通っていらっしゃいます。医系医院からの訓練依頼の紹介状があれば、機能的構音障害や運動障害性構音障害、吃音、言語発達障害なども対象としています。なお、症状などによっては他機関へご紹介させていただきます。


### 言語治療外来

言語治療外来では、主に音声言語という側面を通して患者さんの生活全般を見据え、QOL(Quality of Life):生活の質の向上に努めています。「発音を誤る」「なめらかに話せない」「ことばの育ちがゆっくり」など、発声発語や言語発達の面で困りのことがございましたら、言語治療外来にどうぞご相談ください。

新任診療科長・部長・センター長 ご紹介

## 臨床研究中核病院設置準備室

室長 石黒 めぐみ (いしぐろ・めぐみ)



「臨床研究中核病院」とは、日本発の革新的医薬品・医療機器などの開発を推進するために、国際水準の臨床研究などの中心的役割を担う病院として、平成27年より医療法上に位置づけられている病院のことです。当院ではこの「臨床研究中核病院」の認定を目標に掲げており、臨床研究中核病院設置準備室では、認定要件のクリアを目指して、当院の治験・臨床試験の実施体制の整備に関わる様々な活動を行っています。

### 役割

治験・臨床試験の推進のため、医療者に向けた研修プログラムを企画・実施しています。また、医師・歯科医師が新しい治験・臨床試験に取り組みやすくなるような助成制度の立ち上げなども行っています。大学病院の役割として先進的な医療を提供するにあたり、患者さんに安心して治験・臨床試験に参加していただけるような体制の整


備を進めています。準備室では、現在は医師・リサーチ・アドミニストレーター (URA) 各1名、事務職員2名が活動しています。患者さん・ご家族が安心して治験・臨床試験に参加していただけるような病院を目指し、患者さんの相談窓口や、治験・臨床試験に関する情報提供の場の整備も行ってまいります。

注目! New治療法

## 人工膝関節手術支援ロボット治療がスタート

「ROSA Kneeシステム」 New!

東京医科歯科大学病院整形外科の膝関節・足・スポーツ整形グループでは、人工膝関節手術支援ロボット「ROSA Kneeシステム」を導入しました。変形性膝関節症は膝の関節の軟骨がすり減って変形して痛みが生じる病気で、悪化すると「人工膝関節置換術」という手術で治療します。最近手術中に執刀医のサポートをするロボットが開発されました。これにより従来の方法に比べてコンピューターナビゲーションシステムでコントロールされたロボットによる精度の高い手術が可能となり、術後の膝関節機能の更なる向上や、インプラントが長持ちする効果が期待できます。




## PCCチーム

回答者：PCCチーム看護師長 西 奈緒

### Q.看護部のPCCチームとはどんな組織ですか?

Person(Patient) Centered Careの頭文字をとって名付けられたPCCチームは、当院で治療を受けられる患者さんに対し、入院病棟や外来・中央診療部門など、どこにおいても途切れのない看護を提供することを目標に活動しています。

### Q.PCCチームはいつからスタートし、どんなメンバーがいますか?

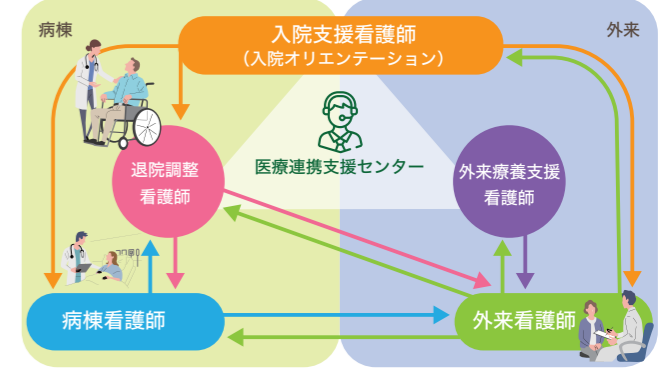
2021年4月に発足しました。各病棟、外来、中央診療部門から1名ずつ選出された看護師が月1回集まっています。

### Q.具体的にはどんな活動をしていますか?

入院を控えている患者さんに行うオリエンテーションで、退院後の療養にどんな不安があるかお聞きして病棟看護師へ引き継いだり、医療的な処置を入院中に習得された方に対しては、病棟看護師と外来看護師があらかじめ情報を共有し、外来受診時に手技の確認も行えるようにしたり、さまざまな部門に所属する看護師が連携してケアをつなげられるよう取り組んでいます。複数の診療科にかかっている場合など、全体的な調整が必要な場合には医療連携支援センターの看護師が橋渡しをすることもあります。

### Q.患者さんに向けてのメッセージをお願いします。

患者さんおひとりおひとりを中心に考え、病気の具合に応じて普段の生活と療養が両立できるためのお手伝いができるよう、チーム一丸となって活動しています。お困りごとがありましたら、看護師へお気軽にお声かけください。



教えて!看護部

看護部の取り組みをQA形式で紹介します

## 新しい治療法のご紹介

New

### 変形性股関節症に対する PRP 股関節注射治療をスタート

運動器外科学分野 講師 宮武 和正 (みやたけ・かずまさ) 先生

当院では2021年より変形性膝関節症に対してPRP治療を行ってまいりましたが、2022年より変形性股関節症に対しても治療適応を拡大しました。当院では患者さんご自身の血液を遠心分離して得られる「自己たんぱく質溶液 (APS)」と呼ばれる新しいタイプのPRPを関節内へ投与しています。APSには炎症を抑える良いタンパク質と軟骨の健康を守る成長因子が大量に含まれており、これを股関節内に注射することで関節内の炎症バランスを整え、炎症や痛みを改善し、軟骨破壊を抑制することが期待されます。治療費は自費診療となり健康保険が適用されないため、全額自己負担となります。当院では膝関節と同様に片股約40万円で行っています。PRP股関節内注射を行った後、1か月後、3か月後、6か月後に診察を行います。

New

### 世界初! 放射線を用いずにむし歯の画像診断ができる 歯科用光干渉断層計

むし歯科 科長 島田 康史 (しまだ・やすし) 先生

むし歯科では、放射線を用いずに、妊婦さんにも安全に繰り返し使用できるむし歯の画像診断装置、歯科用光干渉断層計 (OCT) が、本学と国立長寿医療研究センター、企業との間で共同開発を進めて2020年に薬事承認を得られ、世界初の第1号機が運用スタートとなっています。OCTによって、虫歯治療が必要な歯の内部まで画像で確認しながら、歯を削る必要があるか、歯を削らずに再石灰化を促す治療で済ませることができるかを診断することができます。